

## 映画の小箱

描くことにすべてを注ぐアルテミシア。やがて、画家タッシとの出会いが、彼女の人生を一変させる。

『アルテミシア』

## 女は、絵の創造の世界に激しく生きた

金丸弘美=文  
text by Hiromi Kanamaru

修道院のなかの祈りの時間。何人かの若い女性たちにまじって、一人だけ、しっかりと周りを見つめるような女性がいる。その目は、未来を見ているかのようだ。女性の名はアルテミシア（ヴァレンティナ・チエルヴィ）だ。彼女は礼拝が終わったあと、退場する他の女性たちの後ろについて、礼拝堂の蠟燭の一本を指でもみ消すと、素早くスカートの中に隠し入れる。

自分の部屋に戻った彼女は蠟燭に火を灯し、片手に鏡を持って、自分の肌や胸を鏡に映し出して、せっせとデッサンを始める。

いくつかのデッサンを神父に渡すときの、彼女の誇らしげなこと。しかし、女性の肌を描いた絵は、たちまち修道院で問題となり、親が呼びつけられる。彼女の父親で画家であるオラーツイオ（ミシエル・セロー）は、自分の娘に絵心があることを知って驚き、彼女を自分の弟子にする。こうして、アルテミシアの絵への道が始まるのである。

アルテミシアが、修道院から、自分の部屋まで小走りにいく様子を、そして絵を描くまでの動作の思い詰めたような雰囲気。それだけで、彼女がいかに絵を形にしたいかという、内面の衝動があらわれているかのようだ。

彼女のなかでは、修道院で絵が問題になるのは、願ったことなのだ。それは外に出て絵



を描くための手段なのである。それほどに、彼女は絵に夢中なのである。

人には、なにかを表現したいという思いが、だれしもある。だが、それを形にすることは容易ではない。アルテミシアは、表現する喜びを体で知っている前向きな女性だ。その一途さは、まさに神からもたらされたものであるかのようにだ。彼女は自分が絵を描きたいという思いを表に出すことを躊躇しない。それは体の底からあふれるかのようなのだ。

アルテミシアは実在の女性で、一五九三年から一六五三年のイタリアを生きた。この時代は、イタリアのもっとも輝かしい美術の黄金期ルネッサンスを経て、バロック時代といわれる頃である。彼女の絵は、力強く、表情豊かで、重厚な存在の輝きをもっている。当時、男性が中心の社会にあって、女性が、絵で生き抜くことは容易ではなかった。そんななかで、もっとも歴史的に早く、その存在が記された女流画家として知られる。彼女の描



大阪ツイン21店



新時代のビジネスを、

華やかに演出します。

美味なる思い出のひとときを

東天紅でお過ごしください。



東京国際フォーラム店



**東天紅**  
TOH - TEN - KOH

東天紅 大阪ツイン21店

4月5日(日)新装オープン

〒540-0001 大阪市中央区城見2-1-61  
ツイン21 MIDタワー38階  
TEL 06(947)5115

東天紅 東京国際フォーラム店

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1  
東京国際フォーラム ガラスホール棟7階  
TEL 03-3211-1015



きたいというひたむきさ、一途さは、観る者を、彼女とともに、心地よい未来と可能性へと導いてくれる。

修道院を出て、父親の弟子になって、絵の手伝いをするアルテミシアだが、彼女自身なりの表現の欲求はさらに深まる。近所の幼なじみの男の子フレビオが、彼女に関心を寄せていることを知った彼女は、キスを許す代わりに裸になって頼む。フレビオの裸身をじっくりみつめ、体の筋肉の動きを手でさわわり、そして絵にしていくなアルテミシア。

絵に夢中な彼女は美術学校に父と出向く。しかし当時は男性のみの入学が許され、女性に行くことができない。

そんな頃、一人の画家に出会う。タッシ(ミキ・マノイロヴィチ)だ。彼は、室内から外へ画架を持ち出し、外の風景や構図を大胆に取り入れるという手法も用いて、評価を得ていた。やがてタッシと、アルテミシアの父オラーツイオは、共同で壁画の仕事をするようになる。その縁から、オラーツイオは、アルテミシアをタッシの弟子にさせ、絵画を学ばせることにした。

これまでなかった構図の採り方をアルテミ

シアは、タッシから学んでいくうちに次第にひかれるようになる。またタッシもアルテミシアにひかれる。やがて二人はベッドを共にする。そのときのアルテミシアの手は、まさにアーチストならではのものだ。なんとというアーチスト魂。二人の関係を知ったオラーツイオは激怒し、タッシを裁判で訴えた。結婚歴のあったタッシは投獄され、二人の間はひきさかれる。アルテミシアは、一人、自分の絵の創造という崇高な世界へと新たな旅に出るのである。

アルテミシアの自分の好奇心のおもむくままに、創造と表現を求めていく姿の美しさ。それは女性が自分を主張することが困難な時代にあつて、意思を貫く彼女の生き方そのものの輝きでもある。その生き方の素晴らしさもさることながら、この十七世紀という時代の、画家たちの世界の日常のディテールも、あきさせない。モデルを使って、衣装を着け、明かりを灯し陰影をつけて、それを絵にした。画架に糸を縦横に張って構図をきめて絵に写し取ったりと、創造することの多彩さを満喫もさせてくれるのである。

## 『アルテミシア』 ARTEMISIA

(1997年フランス・イタリア合作)

監督=アリエス・メルレ

出演=ヴァレンティナ・チエルヴィ/ミシェル・セロー/ミキ・マノイロヴィチ/ルカ・

ジンガレッティ/エマニュエル・デヴォス/フレデリック・ピエロ/モーリス・ガレル

配給=エース・ピクチャーズ Bunkamura ル・シネマにて4月下旬公開